

星合 隆成

NTTネットワーク
サービスシステム研究所

主幹 研究者



必要以上に管理されない、自由・平等・対等で、自律的なネットワーク社会を構築したい。これが1998年にブローカレスモデルを提唱したそもそもの動機でした。またブローカレスモデルに基づいて構築されるネットワークコミュニティを「Order-Taking Cyber Society (御用聞き社会)」と名づけました。これは、ネットワーク上の動作実体の嗜好・価値観・動作環境・状況等のさまざまな属性に従って、互いにふさわしい相手とコラボレーション可能なネットワーク上の仮想社会を、ブローカレスモデルに基づいて構築することをねらいとしています。

そして、このブローカレスモデルの実現技術として考案したものが意味情報ネットワークSIONet (シオネット) なのです。1998年から2000年ごろまでを振り返ってみますと、ブローカレスモデルという新たな概念を理解してもらうために多大な努力と時間を費やしましたが、周囲の理解を得ることさえ困難だったことが思い出されます。そして、ブローカレスモデルの考え方を真に理解してもらうためには、2000年のGnutella登場を待たなければなりません。このとき、新しい革新理念の理解と普及には、情熱や多大な努力とともに、タイミングが何より重要であることを実感しました。一方2000年以降、インテリジェントエンティティ、およびインテリジェントエンティティのグループである「知的な場」、および知的な場におけるコミュニティコラボレーションやブローカレス型ポリシーモデルの実現に向けて、その実現技術であるCOMNet (コムネット) の研究・試作に着手し、現在に至っています。

1998年に提唱・考案されたブローカレスモデルとSIONetには、P2Pやユビキタスコンピューティングの実現

技術として、これまでにない斬新で革新的な要素技術が随所に盛り込まれています。また我々はSIONetを次世代ネットワークOSとして位置づけています。つまり、これまでの単なる2者間の直接通信機構を備えたネットワークOSから、自己組織化・自律分散協調が可能なネットワークOSへと飛躍するための、つまり次世代ネットワークOSとして進むべき1つの方向性をSIONetが示しています。またSIONetの特徴的な原理のいくつかは、他のP2Pプラットフォームにおいても採用されており、汎用的なP2P技術やネットワークOS技術としてもSIONetは役立つものと考えています。

そして、コミュニティの事情・状況を十分に勘案したボトムアップアプローチを基本とするコミュニティでの情報化の特性と、ブローカを介することなく自律的にコミュニティを自己組織化するP2Pの理念の親和性の高さ以前から着目し、P2P技術とコミュニティ形成技術の融合、コミュニティ活性化のための活動、その普及・啓蒙・フィールド展開に向けた取り組みをこれまで行ってきました。

今後のP2Pのさらなる普及に向けてはファイル交換ではなく、P2P本来の潜在能力に着目し、P2Pの正しい理解に向けての啓蒙が欠かせません。現時点では、残念ながらP2Pの本質が正しく理解されているとは言い難いですが、P2Pの可能性の明確化、P2Pの普及・啓蒙活動、コミュニティ活性化に向けたコミュニティ形成技術の確立、新たなモデルに基づくマーケットの創造、フィールド展開など、理念を共有する多くの仲間とともに情熱を持って挑戦し、今後ともグローバルな取り組みを行っていく考えです。